福田秀一
プルチョウ　ヘルベルト
編著

日本紀行文学便覧

——紀行文学から見た日本人の旅の足跡——

武蔵野書院

編著者略歴

福田秀一（ふくだ ひでいち Fukuda, Hideichi）
1932年（昭和7年）名古屋に生まれる。1955年（昭和30年）東京大学文学部卒業，1960年（昭和35年）同大学院博士課程終了。成城大学・武蔵大学各助教授を経て，現在国文学研究資料館助教授。文学博士（昭和50年，東京大学）。日本中世文学・和歌史専攻。
主要著書：中世和歌史の研究（昭和47年，角川書店）
中世文学論考（昭和50年，明治書院）
住　所：177東京都練馬区石神井町 8-31-7
(8-31-7, Shakujii-machi, Nerima-ku, Tokyo, Japan)

プルチョウ　ヘルベルト（Herbert E. Plutschow）
1939年（昭和14年）チューリッヒ（スイス）に生まれる。1962年（昭和37年）パリ大学（ソルボンヌ）卒業，1966年（昭和41年）早稲田大学大学院修士課程修了，1973年（昭和48年）コロンビア大学大学院修了。イリノイ大学講師を経て，現在カリフォルニア大学（ロス　アンジェルス）助教授。PhD.（1973年，コロンビア大学）。日本中世文学・日本文学史専攻。1974～1975年（昭和49～50年）国際交流基金（Japan Foundation）により来日。

日本紀行文学便覧——紀行文学から見た日本人の旅の足跡——
A Handbook for the Study of Classical Japanese Travel Diaries

編著者　福田秀一
　　プルチョウ　ヘルベルト
発行者　前田　武
印刷者　山岡景恭
印刷所　三美印刷株式会社
製本所　有限会社手塚製本所
検印省略
発行所　合名会社 武蔵野書院
101 東京都千代田区神田錦町3-11
電話　東京（291）4850・4859
振替口座　東京 67146

定　価　4500円
昭和50年10月30日初版発行

〈3095-423105-8203〉

ま　え　が　き

日本人は，性来自然に対する関心が深く，またその地勢も複雑で風土・景観の変化に富む故か，古来旅を好み，その記録すなわち紀行を著すことも多かった。その中のいくつかは，旅先での見聞を契機として自然や人生に対する深い洞察や反省を示し，紀行文学として日記文学と共に自照文学の一角を占め，日本文学史上重要な地位を有している。

そうした日本紀行文学の特質とその重要性は近年一層認められてきているが，その作品の多いのに比して研究の歴史は浅く，少くともジャンルとしてのまとまった考察は僅かの例外を除いて殆んどないし，個々の作品の特質等についての研究も，平安時代から鎌倉時代のごく少数の作品を除いては，従来殆んど放置されていた。

本書はそのような現状にかんがみて，中古・中世すなわち平安〜室町又は安土桃山時代の紀行ないし紀行を含む作品の中で一応文学的と見られるもの約 70 のすべてについて，その旅行の旅程(コース)と経過地を地図と地名表に示し，各作品の読解と特質把握に何らかの指針となることを意図したものである。併せて上述のような観点から，中古・中世の紀行文学作品の研究の現状を見やすく示した一覧表と詳しい研究文目献録とを前後に添え，更に本書のテーマに関連する著者達の論考各一篇を収めた。それら各章の利用法で説明を要すると思うものについては，その章の初めに凡例等として記してあるが，ここで本書の内容と意図について一つつけ加えておきたい。それは，紀行文学というものが各作者の実際の体験や見聞を素材としているところから，そこには交通史はもちろん，風俗史・民俗史・政治史・社会経済史その他文化史のあらゆる分野の現象が記されあるいは反映しており，従ってこれら紀行文学作品は，日本文学ないし日本文学史の研究対象であるばかりでなく，日本の交通史・風俗史等々上記のような文化史の各分野を専攻しあるいはそれに関心を持つ一般の人々にとっても，きわめて重要な研究資料である，ということである。この意味で著者達は，本書が日本文学の研究者・愛好者ばかりでなく，広く日本の紀行文学に関心を抱き，その研究に志しあるいは従事している人々に利用されることを強く願っている。

本書，特にその中核をなす地図・地名表と文献目録とは，著者達の多年の共同研究の結果であるが，その過程で，大島貴子・上原(当時塚本姓)加代子両氏の協力を得た点がある。また今回直接には，プルチョウの手許にあった英文（ローマ字）原稿から日本語(漢字仮名)に戻したため，その翻字や地名の地図における位置あるいは現在の市町村名の調査などについて，天野初美氏をはじめ，武蔵・お茶の水女子両大学の何

人かの学生諸嬢の助力を得た。記して深く感謝したい。また武蔵野書院とその編集部の長尾宏氏は，当初から本書の企画に絶大な理解を示され，特に長尾氏は著者達の作業を終始激励して有益な助言を与えられた。その他，現在の地名や参考文献の刊行年月等について，著者（福田）から直接お尋ねして御教示を乞うた方もある。これらの人々の協力がなければ，到底本書は世に出なかったであろう。更にまた，著者達が本書の公刊を希望していた矢先，国際交流基金の援助によって昭和 49〜50 年 (1974〜75) にプルチョウの来日が叶ったのは，企画の実現に甚だ好都合であった。これに対しても深い感謝を捧げたい。

本書は，上述のような経緯で成ったものであるが，何分大きなテーマのため，著者達の力が及ばず，思わぬ過誤も少くないであろう。読者の温い御叱正を得て，機会があれば訂して行きたい。御教示は，できれば（出版社との連絡上）福田の方へ頂ければ幸である。

昭和 50 年 8 月

福　田　秀　一
(Fukuda, Hideichi)

プルチョウ　ヘルベルト
(Herbert E. Plutschow)

试读结束，需要全本PDF请购买 www.ertongbook.com

目　　次

まえがき …… 1

中古・中世紀行文学作品一覧 …… 5

中古・中世紀行文学行程地図・地名表

凡　例……16

1 土佐日記……18
2 盧　主……21
3 蜻蛉日記……25
4 更級日記……28
5 高倉院厳島御幸記……33
6 後鳥羽院熊野御幸記……35
7 海道記……39
8 信生法師日記……43
9 東関紀行……45
10 南海流浪記……49
11 うたたね……52
12 無名の記……54
13 もがみの河路……56
14 都路のわかれ……58
15 春の深山路……60
16 十六夜日記……64
17 中務内侍日記……67
18 とはずがたり……69
19 如法寺殿紀行……76
20 太神宮参詣記……79
21 小島の口ずさみ……82
22 住吉詣……85
23 都のつと……87
24 道ゆきぶり……90
25 鹿苑院殿厳島詣記……94
26 室町殿伊勢参宮記……98
27 なぐさめ草……100
28 耕雲紀行……102
29 越前下向記……105
30 遊行十六代祖四国廻巡記……108
31 富士紀行……110
32 覧富士記……113
33 富士御覧日記……117
34 伊勢紀行……119
35 善光寺紀行……122
36 白河紀行……124
37 藤河の記……126
38 正広日記……130
39 筑紫道の記……132
40 平安紀行……136
41 有馬道の記……139
42 紀伊国紀行……142
43 北国紀行……144
44 廻国雑記……147
45 富士歴覧記……155
46 東路のつと……158
47 宇津山記……162

48 宗長手記…… 165
49 さののわたり…… 172
50 高野参詣日記…… 174
51 あづまの道の記…… 176
52 東国紀行…… 179
53 武蔵野紀行…… 183
54 吉野詣記…… 185
55 石山月見記…… 189
56 紹巴富士見道記…… 191
57 天橋立紀行…… 196
58 美濃路紀行…… 199
59 伊勢参宮海陸之記…… 202
60 貞徳他行道之覚…… 206
61 楠長諳下向記…… 209
62 九州道の記…… 212
63 東国陣道記…… 216
64 老の木曽越…… 219
65 九州のみちの記…… 222
66 蒲生氏郷紀行…… 224
67 新納忠元上洛日記…… 226
68 玄与日記…… 228
69 九州下向記…… 233

中古・中世紀行文学参考文献 …… 236

付　録

日本人の旅と紀行（福田秀一）…… 253
紀行文学における一，二の問題(プルチョウ　ヘルベルト)…… 265

Summary (英文あとがき) …… 271

口絵写真撮影——長　尾　　宏
函写真——天橋立図<雪舟・京都国立博物館蔵>
扉写真——西行物語絵巻

中古・中世紀行文学作品一覧

中古・中世に成った紀行作品の数はかなり多く，一応文学的と見られるものだけを数えても約70に上るが，「まえがき」にも記したように，従来の研究はそのごく一部に限られていると言ってよい。そこでその点を通覧して今後の研究に資し，かつ本書に収めた作品のその中における位置をも示すために，次の表を作成した。なおこの表は，福田がかつて発表した「中世日記紀行文学一覧」(『国文学』昭 39・11) を基に，大きく手を入れたもので，従来文学的と見られているものは網羅したつもりであるが，純然たる記録的な作品については，原則として省いた。今回それらまでは調査が及ばなかったからである（但し，例としてそのいくつかを後に挙げておく)。

本表の**排列**は，作品の成立年代順とした（未詳の点は一応の推測による)。その中で，左端に**番号**を付したのは今回地図・地名表に採録したもので，その番号が地図・地名表の検索番号にもなっている。更にその中で番号に括弧を付したのは，純粋な紀行文学作品ではなく，その作品の一部が紀行になっているものである。

次に，**解説文献**の欄は，各作品が従来の主要な文学史書・文学辞典類にどの程度取り上げて解説・論評されているかを一応示したもので，各欄の記号・略称は次の通りである。

記号　◎＝かなり詳しく解説されているもの，または創見の見えるもの。　○＝簡単に解説されているもの。　△＝名を挙げた程度のもの。　×＝文学的な作品ではないと記されているもの。

①～⑪の欄の略称

① 池田：池田亀鑑「日本文学書目解説㈡ 平安時代(下)」(『岩波講座日本文学』昭 7・5)
　山岸：山岸徳平「同㈢ 鎌倉時代(下)」(同，昭 7・9)
　後藤：後藤丹治「同㈣ 室町時代」(同，昭 7・3)

② 西下：西下経一「平安朝の日記・紀行」(同，昭 7・1)
　玉井：玉井幸助「鎌倉時代の日記・紀行」(同，昭 7・5)
　荒木：荒木良雄『室町時代文学史上巻』(人文書院，昭 19・12)

③ 池田：池田亀鑑「王朝時代の日記文学」(新潮社日本文学講座，初版　第 18 巻，昭 3・7；再版『平安時代(下)』，昭 9・1)
　島田：島田退蔵「中世の日記・紀行」(改造社日本文学講座 5『随筆日記篇』，昭 9・11)

④ 大辞典：『日本文学大辞典』(新潮社，初版，昭 7～10；増補改訂版，昭 25～27)
　増：その増補（別巻，昭 27・4)

⑤ 西下：西下経一『日記文学』(日本文学大系 18，河出書房，昭 13・5)

⑥ 五十嵐：五十嵐力『平安朝文学史上巻・下巻』(東京堂，日本文学全史，昭 12～14，新訂版 昭 24～25)
　吉　沢：吉沢義則『鎌倉文学史』(同，昭 15・8；新訂版　昭 27・4)
　　同　『室町文学史』(同，昭 11・12；新訂版　昭 27・9)
　新：その新訂版

⑦ 鳴　神：鳴神克己『日本紀行文芸史』(佃書房，昭 18・8)

⑧ 至文堂：久松潜一編『日本文学史中古・中世』(至文堂，昭 30)
　　増：その改訂新版(昭 40)の「増補訂正」，それは新版(昭 46・9)に吸収されている。

⑨ 今井：今井卓爾「古代の日記・紀行文学」(『岩波講座日本文学史』古代Ⅲ，昭 34・6)
　　石田：石田吉貞「中世の日記・紀行文学」(同中世Ⅰ，昭 33・4)

⑩ 岡　：岡一男『平安朝文学辞典』(東京堂，昭47・5)
　　荒木：荒木良雄『中世鎌倉室町文学辞典』(春秋社，昭 36・9；増訂版，昭 41・10)

⑪ 西下：久松潜一・西下経一監修，秋山虔他編『平安朝文学史』(明治書院，昭 40・4)
　　石津：石津純道「日記と紀行」(『講座日本文学』5 中世編Ⅰ，三省堂，昭 44・1)

また，**主要本文**の欄は，各作品の本文がどのような叢書類に入っているか等を示したものであるが，今日から見て研究史的意義しか有しないものいくつかは，敢えて省いた。叢書類の略号は次の通りである（漢字音五十音順）。なお，注釈書等の題名は，作品名（例『土佐日記全注釈』の「土佐日記」）など適宜省略した。

角：角川文庫
岩：岩波文庫
九州：『近世初頭九州紀行記集』(九州史料叢書 18，孔版)
桂：桂宮本叢書（数字は巻次）
古：古典文庫
講：新註国文学叢書（講談社）
神参：『神宮参拝記大成』(大神宮叢書，戦前版第 4 巻，戦後版第 9 巻)
新釈：新釈日本文学叢書
全集：日本古典文学全集（小学館）
続々類従：続々群書類従
続類：続群書類従紀行部
続類帝：同帝王部
続類日：同日記部
大系：日本古典文学大系
朝：日本古典全書（朝日新聞社）
帝続：『続紀行文集』(続帝国文庫)
帝続々：『続々紀行文集』(続帝国文庫)
東仏：国文東方仏教叢書紀行部
東仏二：同第二輯寺志部
日系：校註日本文学大系
日古：日本古典全集（同刊行会）
日全：日本文学全書
俳人：『俳人逸話紀行集』(俳諧叢書第 6 冊，大 4・8)
扶：扶桑拾葉集（刊本）

文：『紀行文編』（文芸叢書第 11 巻，大 3）
有：『日記紀行集』（有朋堂文庫）
有平：『平安朝日紀集』（同）
類：群書類従紀行部
類雑：同雑部
類神：同神祇部
類帝：同帝王部
類日：同日記部

因みに，今回紀行文学とは認め得なくて採らなかったのは，例えば次のような作品である。これらは，主題（思想）や構成（構想）・叙述（描写）等の点で文学性に欠けるけれども，それらも断片的には見られるものもあるし，当時の旅の模様などを知るという文化史的な観点からは，きわめて有力な資料であることは言うまでもない。なお，この他にも行幸・御幸の記は多い。

宮滝御幸記（散佚）	菅原道真	昌泰元（998）	扶桑略記その他所引
宇治関白高野山御参詣記	平　範国	永承 3（1048）	続々類従記録・歴代残欠日記
白河上皇高野御幸記	藤原通俊	寛治 2（1088）	続史料大成 22
高野御幸記	藤原実行	天治元（1124）	類従帝王
両院熊野御詣記（長秋記の抄出か）	源師時か	天承元（1131）	同
東大寺衆徒参詣伊勢大神宮記	慶　俊	文治 2（1186）	神参
隆弁法印西上記	隆　弁	建長 2（1250）	未刊，東大史料に影写
後宇多院御幸記	頼　済	正和 2（1313）	続類従帝王
日吉社並叡山行幸記（必ずしも紀行の体裁ではない）	未　詳	元徳 2（1330）	類従帝王
政基公旅引付	九条政基	文亀元（1501）～永正元（1504）	図書寮叢刊
信州下向記	厳　助	天文 2（1533）	信濃
中書家久公上京日記	島津家久	天正 3（1575）	九州
播州御征伐之事（その他天正記の各作品）	大村由己	天正 8（1580）	類従合戦
九州御動座記（天正記の中か）	同	天正 15（1587）	九州
天正日記	内藤清成	天正 18（1590）	続々類従記録
〔豊臣秀吉九州下向記〕（菊亭家記録）		文禄元（1592）	九州

また，古く「いほぬし」（増基法師集）がそうであるように，紀行の形式を思わせる家集，すなわち作者が旅をしており，その歌の排列もある程度その行程順になっているもの，も少くない。中でも詞書が詳しくあるいは海道の地名が見えて興味を引くのは，「右近少将雅頭集」（飛鳥井雅頭）・「為信集」（法性寺為信）・「権中納言実材母集」などで，鎌倉時代のものに多いようである。一方，中古の「本朝無題詩」（巻七）は，蓮禅と藤原周光の瀬戸内海紀行唱和詩を収める。これらや「万葉集」以来の羇旅歌なども，紀行文学と共に資料的にも注意すべきであり，またこれらの歌集に見える詞書や歌から，逆に紀行文学の特質が明らかになる点もあろうと思われる。

番号	作品名	作者	旅行<成立>年代	① 池田 山岸 後藤	② 西下 玉井 荒木
1	土佐日記	紀貫之	承平4(934)～5 〈承平5(935)か〉	○	◎
(2)	いほぬし(除雑纂部)	増基法師	未詳	◎	◎
(3)	蜻蛉日記(一部)	藤原道綱母	安和元(968)～天禄2(971) 〈貞元2(977)頃か〉	○	◎
(4)	更級日記(一部)		寛仁4(1020)～天喜5(1056)頃 〈治暦(1065～69)頃か〉	○	◎
5	高倉院厳島御幸記 伊勢記(抜書・佚文) 南都巡礼記	源通親 鴨長明 実叡	治承4(1180) 文治3(1187)頃 建久2(1191)	○	
6	後鳥羽院熊野御幸記	藤原定家	建仁元(1201)		
7	海道記	未詳	貞応2(1223)		◎
(8)	信生法師日記(信生法師集の前半)	信生法師	元仁2(1225)		◎
9	東関紀行	未詳	仁治3(1242)		◎
10	南海流浪記	道範	仁治4(1243)～建長元(1249)		
(11)	うたたね	阿仏	嘉禎(1235～38)頃か 〈建長3(1251)以前か〉		○
	関東往還記	叡尊	弘長2(1262)		
12	無名の記	飛鳥井雅有	文永5(1268)～6		○
13	もがみの河路	〃	文永6(1269)		○

试读结束，需要全本PDF请购买 www.ertongbook.com

解説文献									主要本文
③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	
池田 島田	大辞典	西下	十嵐 五吉沢	鳴神	至文堂	今井 石田	岡 荒木	西下 石津	
◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	尊経閣複製・扶・類・日全・新釈・日古・日系・有平・岩・朝・大系・日大人文科学研究所『総索引』・萩谷朴『全注釈』他
	△		○	◎		○	◎	△	類・国観・東仏・増淵勝一『本文及索引』・私家集大成中古Ⅰ
◎	◎	◎	◎	△	◎	◎	◎	◎	日全・新釈・日古・日系・有平・岩・角・大系・全集・玉上琢彌他『蜻蛉日記本文篇』・上村悦子『校本・書入諸本の研究』・柿本奨『全注釈』他
◎	◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	扶・類・日全・日古・日系・有平・岩・大系・全集・東節夫他『総索引』・玉井幸助『新註』他
	△			◎	△	△	増◎		扶・類・帝続
○					○				神参・『鴨長明全集』
						×			尊経閣複製・東仏二（南都七大寺縁起）
					△		増◎		尚古会複製（熊野道之記）・類
◎	◎		◎	◎	◎	◎	◎	◎	類・帝続・有・岩・朝（十六夜日記他）・講・野呂匡『海道記新註』他
○		◎	◎	◎	△	○		○	新潮社日本文学講座・桂六・信濃・私家集大成中世Ⅱ
◎	◎		◎	◎	◎	◎	◎	◎	扶・類・帝続々・日系・有・岩・朝（十六夜日記他）・講他
					△	◎	増◎		類・東仏
	◎		◎	◎	◎	◎	◎	△	扶・類・帝続々・講（十六夜日記）・『校註阿仏尼全集』・江口正弘『総索引』
						◎			金沢文庫複製（断簡）・史籍雑纂一（首欠）・関靖『校訂増補関東往還記』（上記二本を併せる）
							○ ○		古（「嵯峨のかよひ」と共に『飛鳥井雅有日記』）

番号	作品名	作者	旅行<成立>年代	① 池田 山岸 後藤	② 西下 玉井 荒木
14	都路のわかれ	〃	建治元(1275)		◎
(15)	春の深山路(一部)	〃	弘安3(1280)		◎
(16)	十六夜日記(前半)	阿仏	弘安2(1279)～3		○
	太神宮参詣記	通海	弘安9(1286)		
(17)	中務内侍日記(一部)	中務内侍	弘安8(1285)～10 〈正応5(1292)頃か〉		◎
(18)	とはずがたり(後半)	後深草院二条	正応2(1289)～嘉元4(1305) 〈嘉元4(1306)～正和2(1313)〉		
19	如法寺殿紀行	未詳	嘉元4(1306)か		
20	太神宮参詣記	十仏	康永元(1342)	◎	○
21	小島の口ずさみ	二条良基	文和2(1353)	○	◎
22	住吉詣	伝足利義詮	貞治3(1364)		○
23	都のつと	宗久	観応(1350～52)頃	○	◎
24	道ゆきぶり	今川了俊	応安4(1371)	○	○
25	鹿苑院殿厳島詣記	〃	康応元(1389)		◎
26	室町殿伊勢参宮記	未詳	応永21(1414)		○
27	なぐさめ草	正徹	応永25(1418)		◎
28	耕雲紀行	耕雲	〃〈応永26〉	○	
29	越前下向記	飛鳥井雅縁	応永34(1427)		
30	遊行十六代祖四国廻巡記	其阿	永享2(1430)		
31	富士紀行	飛鳥井雅世	永享4(1432)	△	○
32	覧富士記	堯孝	〃	△	○
33	富士御覧日記	未詳	〃	△	○
34	伊勢紀行	堯孝	永享5(1433)		○
35	善光寺紀行	堯恵	寛正6(1465)		○
36	白河紀行	宗祇	応仁2(1468)		
37	藤河の記	一条兼良	文明5(1473)	○	◎
38	正広日記	正広	〃		○

解説文献									主要本文
③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	
池田・島田	大辞典	西下	五十嵐・吉沢	鳴神	至文堂	今井・石田	岡・荒木	西下・石津	
○			○	○			○		
○			○	◎	◎	○	△		続類日
◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	扶・類・日全・新釈・日系・有・岩・朝・講・『校註阿仏尼全集』・古・玉井幸助『評解』他
									神参
○	◎		◎		◎	◎	◎	○	扶・類日・日全・有平・玉井幸助『新注』他
	増◎		・○		増◎	◎		◎	新典社影印・桂十五・朝・角・冨倉徳次郎『とはずがたり』・呉竹同文会『全釈』他
									『国文学』昭40.12
		◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	扶・類神・神参・富山房百科文庫・加藤玄智『纂註』
	△	◎	◎	◎	◎	◎	◎		扶・類・帝続・文
	△			◎	○		◎	△	扶・類・帝続々
	△	△	◎	◎	◎		◎	○	扶・類・帝続々・文
◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎		扶・類
○	○		△	◎	○	○	○	△	扶・類・帝続々・文
		○		◎	○		◎	△	続類・史籍集覧・改定同・史料叢書・神参
◎	△	◎	△	◎	◎	◎	◎		扶・類・帝続々・三浦三夫(私家版)
				△					神参
									続々類従(宋雅道すがらの記)
									東仏
			△	◎	○	○	◎	△	扶・類・帝続
			△	◎	○	○	◎	△	扶(富士紀行)・類
				◎	○	○	◎	△	類・帝続々
		○		◎	○	○	○	△	類・神参(伊勢参宮紀行)
				◎	○	○	○		類・帝続々・東仏・信濃
○	△			◎	◎	◎	◎	○	続類・俳人・金子金治郎『宗祇旅の記私注』・井本農一『宗祇』
	△	△	◎	◎	○	△	◎		扶・類・帝続々・文
	△			◎	△	○	◎増◎	△	類・帝続々

番号	作品名	作者	旅行<成立>年代	① 池田 山岸 後藤	② 西下 玉井 荒木
39	筑紫道記	宗祇	文明12(1480)		
40	平安紀行	伝太田道灌	〃	◎	○
41	有馬道の記	蓮如	文明15(1483)		
42	紀伊国紀行	〃	文明18(1486)		
43	北国紀行	堯恵	〃		◎
44	廻国雑記	道興准后	〃 ～19	○	○
45	富士歴覧記	飛鳥井雅康	明応8(1499)		○
46	東路のつと	宗長	永正6(1509)	△	
(47)	宇津山記	〃	〃 ～14		
(48)	宗長手記	〃	大永2(1522)～7		
49	さののわたり	宗碩	大永2(1522)		
50	高野参詣日記	三条西実隆	大永4(1524)	△	○
51	あづまの道の記	尊海	天文2(1533)～3		○
52	東国紀行	宗牧	天文13(1544)～14		
53	武蔵野紀行	伝北条氏康	天文15(1546)	△	○
54	吉野詣記	三条西実条	天文22(1553)		○
	三塔巡礼記	〃	天文23(1554)		△
55	石山月見記	〃	天文24(1555)		○
56	紹巴富士見道記	紹巴	永禄10(1567)		
57	天橋立紀行	〃	永禄12(1569)	△	
58	美濃路紀行	兎庵老人	天正元(1573)		○
59	伊勢参宮海陸之記	西園寺宣久	天正4(1576)		
60	貞徳他行道之覚	度会貞徳	天正11(1583)		
61	楠長諳九州下向記	楠長諳	天正15(1587)		
62	九州道の記	細川幽斎	〃	△	
63	東国陣道記	〃	天正18(1590)		
64	老の木曽越	伝〃	未詳		
65	九州のみちの記	木下長嘯子	天正20(1592)		
66	蒲生氏郷紀行	蒲生氏郷	〃		

解説文献									主要本文
③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	
池田 島田	大辞典	西下	五十嵐 吉沢	鳴神	至文堂	今井 石田	岡 荒木	西下 石津	
○	△	◎		◎	◎	◎	◎	◎	類・帝続々・俳人・金子金治郎『宗祇作品集』・同『宗祇旅の記私注』・井本農一『宗祇』
	△		◎	◎	△		◎		類・帝続々
									東仏
									東仏
○	◎	△	◎	◎	◎	◎	◎		類・信濃
	△	△		◎	◎	◎	◎		類・帝続・東仏・有
				◎	○	△	◎		扶・類・帝続々(関東海道記)
△	△	△	△	◎	◎	◎	◎	△	類・帝続
△	△					◎	◎	△	類雑
△	△	△		△	○	◎	◎	◎	類日・岩(宗長日記と共に同題で)
				◎	◎	○	◎		続類・俳人・神参
	○	△		◎	△	◎	◎	△	扶(住吉紀行)・類・帝続・東仏
				◎	△	◎	◎増◎		類・帝続・東仏
	△	△		◎	○	○	◎		類・帝続々
					△	△	◎		扶・類・帝続
	△	△			△	◎	◎		扶・類・帝続・東仏
						△			扶・類雑・東仏
						△	○		扶・類雑
	△	△		◎	○		◎		類・帝続
				△	△				『国文学攷』53号(昭45・5)
				○	△	○	◎		続類
									神参
									続々類従
									九州
	○	△	△	◎	△	◎			扶・類・帝続・有・細川護貞『細川幽斎』
	○			◎	△	◎			類・帝続々・細川護貞『細川幽斎』
	△								信濃(玄旨法印道之記)・『相模女子大紀要』24(昭41・8)
	△			○	△	○			扶・帝続
	○			◎	△	◎			類・帝続・信濃

番号	作品名	作者	旅行〈成立〉年代	①	②
				池田 山岸 後藤	西下 玉井 荒木
67	新納忠元上洛日記	新納忠元	文祿3(1594)		
68	玄与日記	玄与	文祿5(1596)～慶長2(1597)		
69	九州下向記	是斎重鑑	慶長3(1598)		

试读结束，需要全本PDF请购买 www.ertongbook.com